

議会だより

平成28年12月

No.91

あつさ

題字は、厚沢部保育所たんぽぽ組の澤田琳^{さわ たりん}さんです。



平成28年第3回定例会議場（平成28年9月5日～）



STOP！！ジャガイモシストセンチュウ

～日本一のブランド「あっさぶメイクイン」を守ろう！～



上里ふれあい交流センター完成予定図

上里ふれあい交流センター

新築工事請負契約を締結

第3回定例会が9月5日招集され、補正予算等29件を審議し、いずれも原案どおり可決しました。

補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ7509万円を追加し、総額46億5062万2千円となりました。追加補正された主なものは次のとおりです。

●旧厚沢部川農業開発事務所改修工事費
(700万9千円)

●財政調整基金積立金余剰金分
(3800万円)

●簡易水道事業特別会計繰出金運営費分
(690万8千円)

●農業集落排水事業特別会計

繰出金運営費分
(359万7千円)

●うずら温泉修繕料
(1061万7千円)

●檜山広域行政組合消防費負担金厚沢部消防署経費
(298万6千円)

●教育林修繕料
(112万8千円)

質疑応答 (要旨のみ)

問 旧厚沢部川農業開発事務所改修工事費について

答 外国人の農業研修生用に建物内部を改修、電灯・暖房

国保会計

設備工事、火災報知機設置工事を行います。

歳入歳出それぞれ255万円を追加し、総額7億4396万9千円となりました。

補正内容は国保事業費納付金等算定システムとの連携に係る自庁システムの改修委託料等です。

介護保険会計

保険事業勘定は1217万2千円を追加し、総額6億2004万2千円となりました。補正内容は交付金等過年度精算返還金等です。

簡易水道会計

歳入歳出それぞれ1035万4千円を追加し、総額8816万4千円となりました。
補正内容は西鶉地内交差点部仕切弁移設工事費等です。

農業集落排水会計

歳入歳出それぞれ359万7千円を追加し、総額2億7633万7千円となりました。
補正内容は、経営戦略策定業務委託料です。

条例

●厚沢部町立学校設置条例の一部を改正する条例の制定

契約の締結・変更

●厚沢部町役場庁舎外壁・屋根・内部等省エネ長寿命化工事請負契約の締結

●上里ふれあい交流センター

新築建築主体工事請負契約の締結

●上里ふれあい交流センター新築機械設備工事請負契約の締結

●上里ふれあい交流センター新築電気設備工事請負契約の締結

●上里ふれあい交流センター新築チップボイラー導入工事請負契約の締結

●厚沢部町管内橋梁長寿命化事業当路橋補修工事請負契約の変更

質疑応答 (要旨のみ)

問 厚沢部町役場庁舎外壁・屋根・内部等省エネ長寿命化工事の内容について

答 外壁に金属パネル等を張り、断熱性の高い窓・サッシへの交換、屋根は断熱材を張り、上部にシート防水を行います。また庁舎1階トイレは内装をリニューアルし、既存

人事

の和式を洋式に変えます。

●任期満了に伴う教育委員会委員の任命について、佐藤祐子さん(本町)、谷口智則さん(館町)の2名を任命することに同意しました。

●任期満了に伴う固定資産評価審査委員会委員の選任について、山内敏明さん(鶉町)を選任することに同意しました。

●任期満了に伴う人権擁護委員の推薦について、岩田富貴子さん(鶉)を推薦することに同意しました。

議員派遣

●札幌厚沢部会総会

目的 意見交換、交流
場所 札幌市

期日 10月29～30日
派遣議員 中山俊勝

松村松雄
下川部洋伸

●総務文教常任委員会視察研修

目的 移住定住・空き家対策、小水力発電事業視察

場所 長野県小布施町

期日 平成28年10月17日

派遣議員 佐々木宏

下川部洋伸

浜塚久好

●産業厚生常任委員会視察研修

目的 移住定住対策、特定農業法人の取組、地域工

場 長野県飯島町・飯田市

期日 平成28年10月24日

派遣議員 高田一弥

松村松雄

中山俊勝

只野勲

山崎孝

報告

●平成27年度健全化判断比率の報告

●平成27年度公営企業会計に係る資金不足比率の報告

各会計補正予算額一覧表

会計名	区分	補正額	補正後の額
一般会計		7509万円	46億5062万2千円
国民健康保険事業特別会計		255万円	7億4396万9千円
介護保険事業特別会計	保険事業 事業勘定	1217万2千円	6億2004万2千円
簡易水道事業特別会計		1035万4千円	8816万4千円
農業集落排水事業特別会計		359万7千円	2億7633万7千円

意見書を提出しました

第3回定例会で意見書2件を原案どおり可決し、関係省庁に提出しました。(内容省略)

●林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、文部科学大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、復興大臣

●J R北海道・J R四国・J R貨物に係る税制特例の恒久化等を求める意見書

提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、国土交通大臣、総務大臣

一般質問

～聞いてみたい、こんなこと～

問 認定こども園に係る建設計画、経営方策、資金需要について伺います。

答 3地区の保育所の統合を視野に早ければ平成28年度から町営による認定こども園を新町に建設する計画でしたが、保護者説明会の中で、今の建設場所では狭いなどの意見が多く出されました。これらの意見を踏まえ、建設計画を練り直し、保護者の理解を得ながら進めていきます。建設資金については建設が確定後となりますが、可能な限り補助事業、地方債を活用し、町の財政負担を減らします。



山崎議員

質問 1

認定こども園の早期開園を

保護者の理解を得ながら進めていきたい

山崎孝議員

洪田町長

質問 2

道の駅あつさぶの更なる発展と戦略について

問 今年1月に国の重点道の駅に指定、またオープン以来最多の来場者数に達し、今後の更なる発展と戦略について伺います。

工夫を凝らした施設改善や駐車スペースの拡充を

答 健全な運営を継続していくために、潤沢な運営資金の確保が課題であり、そのために観光土産品や農作物等の販売額を伸ばしていく必要があります。ドライバーが休憩やトイレで立ち寄るだけでなく、目的をもって来る来場者を増やすため、工夫を凝らした施

設に改善するとともに駐車スペースの拡充、販売戦略の構築を行い、サービス面の充実を図っていきます。また、接客等の改善・向上を図るために観光アドバイザー等専門家の意見を積極的に取り入れていきます。



道の駅あつさぶ

土砂災害対策について

加藤古志男議員

質問 1

急傾斜地崩壊危険箇所など平成31年度までに調査を終了予定

渋田町長



加藤議員

問 ①町内26箇所の土砂災害危険箇所のうち警戒区域、特別警戒区域に新築1箇所が平成24年に指定されていますが、どのような対策がとられていますか。

らには直接住民に対し警戒区域の周知の徹底、体制整備に取り組みました。

③北海道では平成31年度までに全道全ての調査を終える予定であり、町内では28年度4箇所、29年度4箇所、30年度5箇所、31年度5箇所の計18箇所の調査を進めることとなっています。

②土砂災害危険箇所26箇所のうち8箇所が調査を終えています。残りの7か所はどのようになっていますか。

③未調査の危険箇所18箇所は、今どのように進んでいますか。

答 ①災害情報の伝達や避難が素早くできるように町の防災計画に定めて防災のしおりやハザードマップの配布、さ



厚沢部町洪水ハザードマップ

質問 2

後期高齢者保険料の軽減特例の維持、継続について

問 ①平成29年度から保険料の軽減特例が見直され、高齢者の保険料負担が増えることについての町長の考えを教えてください。

②軽減特例見直しによる町内高齢者への影響をどう考えますか。

③町長として保険料軽減特例の維持、継続のため努力すべ

きと考えますが、いかがですか。

低所得者の保険料負担を抑える

答

①医療費の上昇は今後も懸念されることから、ある程度の保険料の上昇は予想されますが、低所得の高齢者の負担についてはできる限り抑えるように配慮して欲しいと考えます。

②現在9割軽減の方の年間保険料が4980円、8・5割軽減の方は7471円ですが、これが軽減特例見直しにより7割軽減となると、いずれも1万4942円となり、9割軽減の方は約3倍に、8・5割軽減の方は約2倍の保険料となります。

③所得の低い高齢者の保険料について負担が大きくなるらないよう、他の町村と協力しながらこの問題について関係機関等へ働きかけていきます。

まちの議会を傍聴してみませんか

町政はあなたのために

次の定例会は12月12日（月）からです。

《一般質問開始予定：12日 午前10時20分頃～》

手続きは、議会事務局備え付けの傍聴者名簿に住所・氏名を記入するだけです。

各会計決算を認定

平成27年度各会計の決算認定は、9月5日から7日に審査特別委員会に付託し審議され、いずれも認定可決されました。委員会での主な質疑を要約してお知らせします。

一般会計

問 町民税の収入未済額及び滞納繰越分について

答 収入未済額現年分が165万9432円、滞納繰越分は500万1273円となっています。徴収については誓約書による分納、職員による戸別訪問を行っています。

問 町税滞納者に対する行政サービスについて

答 町税に滞納がある場合は行政サービスが制限されることもあります。

問 町民税における不納欠損について

答 43万9857円で死亡等の理由によるものです。対象者は法的な条件、現況を確認したうえで決定されます。

問 住宅使用料の収入未済額について

答 現年度分24万7900円は現在、完納されており、滞納繰越分203万5248円は分納により納付されている状況です。

問 通知カード・個人番号カードの交付状況について

答 平成27年度で個人番号カードは145人に交付、通知カード未交付の52名にはハガキ等でお知らせしています。

問 出合い・賑わい・元気づくり事業委託料について

答 大変人気の高い事業であり、町内だけでなく、もう少し広げた範囲で出合いの場を創出していきます。

問 道南ドクターヘリ運航費負担金について

答 平成27年度出動件数は8件です。そのうち実際に病院への搬送が7件、残る1件は救急隊員が患者の様態を確認しヘリ不要と判断しました。

問 不法投棄廃棄物撤去委託料について

答 町道須賀木間内線の道路横に捨ててあった大量の不法投棄物を回収・撤去しました。

問 有害鳥獣捕獲用備品購入費について

答 箱わな、おりを5台購入しました。現在、町で所有するおりは13台となります。

問 特別支援教育支援員について

答 厚沢部中学校、厚沢部小学校、館小学校に各1名おり、支援員を配置させるための学校要件や支援員になるための条件はありません。現在の支援員3名は教員免許取得者です。

平成27年度 厚沢部町各会計決算

区分 会計名		歳入(収入)	歳出(支出)	差引残額
一般会計		44億3642万1868円	43億1036万3874円	1億2605万7994円
国民健康保険事業特別会計		7億3955万4395円	7億1572万7671円	2382万6724円
後期高齢者医療特別会計		6286万726円	6283万6907円	2万3819円
介護保険事業特別会計	保険事業勘定	5億8098万6207円	5億7041万8645円	1056万7562円
	介護サービス事業勘定	201万9480円	201万9480円	0円
簡易水道事業特別会計		8998万5414円	8736万325円	262万5089円
農業集落排水事業特別会計		1億5163万5204円	1億5084万1732円	79万3472円
国民健康保険事業特別会計	収益的収入及び支出	4億9043万2001円	4億8959万4413円	83万7588円
	資本的収入及び支出	3525万1539円	3525万1539円	0円

問 英語指導助手派遣事業について

答 平成2年から実施しており、外国人講師とのコミュニケーション

ケースションを通し英語に慣れることを目的としています。今後は今まで以上に充実した授業内容にしていきます。

国民健康保険病院事業特別会計 決算審査意見書（抜粋）

公的医療機関の果たすべき大きな役割は、地域において提供されることが必要な医療のうち、採算性等の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供することにある。

平成27年度決算は、入院患者数が増加し病院の収益も伸びているものの、医業損失は昨年度と比較してわずかながら増加している。

経営効率化のため、医療事務専門会社への一部業務委託、看護師の確保などに順次取り組んでおり、入院患者数も伸びてきている。今後の患者数の推移や不採算の公立病院に対する交付税算定の減額等を踏まえ、今後さらなる経営改革が必要となる。

今後、厚沢部町国民健康保険病院が社会インフラである公立病院として果たす役割として、民間による医療提供が困難な山間へき地・過疎地等における一般医療、救急などの不採算部門に関わる医療の提供を継続することは必要不可欠である。

総合診療の実施で一次医療としての役割を十分に発揮されることを期待する。

今後とも地域に密着した医療機関として町民の健康を守り、保健・医療・福祉の関係機関との連携を更に密にするとともに、新公立病院改革ガイドラインに基づき病院改革プランを策定し、さらなる経営改善に向けた取組をすすめて、職員が一丸となり充実した地域の医療機関として住民のニーズに応じた医療サービスの提供を継続することを望み審査意見とする。

厚沢部町代表監査委員 進 藤 貞 夫
厚 沢 部 町 監 査 委 員 浜 塚 久 好

各会計決算審査意見書（抜粋）

町税、国保税、介護保険料は依然として未納が発生している状況であるが、町税及び国保税については、従来からの滞納整理機構への引継ぎ等に加え、必要に応じ町職員で資産調査や差押えを実施した結果、徴収率は町税、国保税ともに向上しており、介護保険料についても昨年と比べ上昇している。

各種負担金等の収納状況は、奨学資金貸付金償還金、公営住宅使用料、上下水道使用料等の未納も発生しており、長期化しているものもあり、早急に対策を講じるべきである。特に、国営相和地区農地開発事業負担金は平成27年度末の未納額が、256,291,517円となっており、差押え等で8,137,864円の収入実績があったものの、個人で多額の未納額を抱えているケースが見られる。未納が解消されない場合、将来的には債権放棄せざるを得ない懸念もあるが、町の今後の対応としては、引き続き差押え等の強制的な徴収や不動産物件の競売も視野に対策を講じることである。なお、住宅使用料については継続した未納解消への取組の結果、収入未済額は減少している。

平成27年度決算状況においては、決算額は地方創生事業や公営住宅整備などで前年度決算額を上回っている。積立金現在高は40億円台を維持し、北海道市町村備荒資金組合の現在高は約1,223,125千円と健全財政の維持が図られている。また、予算規模のみならずその実施内容について着目すると、補助金等を活用し町財政の負担を最小限に抑えた中で事業実施するとともに、経済活動の活性化に資する事業が選択されている。

産業・福祉・教育など広く住民生活に密着するサービスの水準を維持・継続し、さらに行政サービスを向上させるため、より一層、経済性・効率性・効果を高めた自治体経営を行い、さらには町内の経済活動の活性化に資するとともに、健全かつ効率的な財政運営を進めることを望み審査意見とする。

委員会活動

総務文教常任委員会で行った第1回所管事務調査の内容をお知らせします。

○総務文教常任委員会

第1回調査日 7月15日

1 町有林（上里地内外）の 管理状況について（現地調査含む）

町有林（上里地内外）の現状について資料説明を受け、管理状況について現地調査を行った。

平成22年度以降、定性間伐から選木の手間が省け施業の効率化が図られるとの理由で、国の補助事業を導入し年間約25ヘクタールの列状（2列）間伐を実施している。施業にあたっては、町森林組合と協議の上、樹齢25年～35年生のスギ、トドマツを中心に間伐している。2列の列状間伐は、作業の効率性、搬出経費等を考慮し、3列へ幅を広げることへの検討も必要である。獣害については、今回の調査地内では平成24年度にカラマツ植栽後に野鼠、野兎の

被害により苗木が全滅。平成27年に樹種をトドマツに変更し再造林した結果、殺鼠剤の空中散布も併せて実施され、現在では被害は確認されていない。

殺鼠剤の空中散布については、平成27年度から行われ、町有林で年間約150ヘクタール、民有林で約120ヘクタールの面積で実施された。今後も民有林所有者への町支援も含め継続して実施するのが望ましい。

2 地域おこし協力隊の現状と今後の展望について

地域おこし協力隊は、平成21年10月から活動をスタートし、町の移住交流、観光、福祉及び農作業への従事と各般にわたり活躍され、町の施策等に貴重な提言も行っている。制度発足時と比較して募集する自治体数は増加し、人員の確保は一層困難となることが予想される。今後は、3年の任期終了後に隊員の定住・定着に向けた具体的な支援策も募集要件として提示することも必要である。現在、将来の農業の担い手として活動している隊員が、任期終了後に

就農予定だが成功事例として
今後、示せるように支援して
いく必要がある。

3) 素敵な過疎づくり株の現 状と今後の展望について

移住促進・交流事業を核と
する町の活性化施策を実施す
る組織として平成21年9月に
設立され、現在は社長を除き
5人体制で運営されている。
移住促進事業の柱である、
「ちよつと暮らし事業」は、
7年目を迎え、移住実績はな
いもののリピータの確保や広
く厚沢部町の知名度アップに
つながっている。

また、厚沢部ファンの獲得
や地域活性化のための交流事
業では、ノートルダム学院小
学校の「ディスカバリー」、
奈良教育大学、愛知学院大学、
中部学院大学短期大学部の
「アウトキャンパススタディ」
を実施しているところである。
町外の若者と町民との交流機
会の創設に貢献しているが、
今後は新たな事業内容の検討
も必要である。若者の出会い
の場をつくる「街コン」は、
参加者の評判も良く回数を増
やし、今後も継続してほしい。
今後も「素敵な過疎のまち、

あつさぶ」の実現に向け移住・
交流事業の充実、厚沢部ファ
ンの獲得に努めるとともに、
移住者確保に向け一層の努力
を期待する。

○産業厚生常任委員会

第1回調査日 7月14日

1) 鵜ダム水力発電の進捗状 況について

鵜ダム水力発電に係る調査
委託業務の進捗状況について
資料説明を受け、現地調査を
行った。

調査されている内容として
は、発電使用水量と発電形式
の検討、発電規模及び発電量
の算定、さらには発電による
経済性の評価などであったが、
調査期間が冬季期間で流入量
が少なかったこともあり、結
果として費用対効果の数値は
低いものであった。平成28年
度は夏季期間に調査を実施す
るということなので、その結
果に期待するとともに、今後
は発電した電気の使用目的を
明確にし、供給範囲、利用方
法の十分な協議及び調査をす
る必要があると考える。

2) 終末処理施設の改修状況 について(現地調査)

終末処理施設(厚沢部地区、
赤沼地区)の改修状況につい
て資料説明を受け、現地調査
を行った。

各施設で設備の経年劣化が
見られ、平成28年度から汚泥
脱水機、土壌脱臭装置、中継
ポンプ等を順次更新していく
計画である。今後は国の財政
支援を有効活用し、可能な限
り町の財政負担を減らしてい
くとともに、健全な施設運営
に努め、計画的に改修工事を
進めていくことが望まれる。

3) 生活道路(赤沼地区等) の整備について

新町山田通り線、赤沼清水

通り線及び赤沼大滝通り線の
生活道路について説明を受
け、現地調査を行った。新町
山田通りは、現道部が一番低
地にあることから滞水箇所と
なっているため、道路施行(盛
土)を行った場合、近隣住居
等への影響が予想されるとの
ことであった。また、赤沼清
水通り線は隣接する空き地に
今後、住宅が新築された場
合、上下水道設備を設置する
際に大規模な道路改修が必要
となること、赤沼大滝通り線
では未処理用地が一部あるな
ど、それぞれの道路に未整備
となっている事情があった。
今後は近隣住民の意見等を聞
いた上で、問題解決に向け努
力するべきだと考える。

委員会活動状況

月日	委員会名	出席委員数	活動内容
9 1	議会運営委員会	4名	第3回定例会について
10 14	議会広報編集特別委員会	3名	広報No.91号の編集について
4	議会広報編集特別委員会	3名	広報No.91号の編集について
11 16	産業厚生常任委員会	5名	第2回所管事務調査
17	議会広報編集特別委員会	3名	広報No.91号の編集について
24	総務文教常任委員会	4名	第2回所管事務調査

編集後記

厚沢部の紅葉が今、一番美
しい時期を迎えていると思いま
す。厚沢部から中山峠に進むと
とに色鮮やかな紅葉に変わって
いくのに気づかれます。紅葉
は、海岸から遠く離れているこ
とと、昼夜の寒暖の差が大きい
程、美しくなると言われていま
す。熊石生まれの私は紅葉に感
動したことはありません。

昭和四十年代になると、各家
庭で自家用車を持つようになり
ました。私も車を買いました。
二年を過ぎて車検を受けようと
した時、ボンネットに少年の顔
にできるニキビのようなボツボ
ツができていました。磨くと錆
びて穴になっていました。塩害
です。車庫に入れた車でも、ボ
ンネットを指でなでると塩がつ
きます。下取りが安くない
ために一回目の車検を受けずに
新車に変える人が多かったで
す。塩害のため、自転車、屋
根、アンテナなどの錆が激しい
です。厚沢部に来たら塩害はな
くなり得をしたと思うこの頃で
す。(か)

議会広報編集特別委員会
委員長 下川部洋伸
副委員長 松村 松雄
委員 加藤古志男
委員 只野 勲